

特集

文化財を3Dで記録する

発掘調査の記録は、今までは平面的な2次元画像などが主流でした。しかし、近年、3D画像でも記録する事例が増えてきています。3D画像は、現地に居なくても画像を自由に拡大縮小、全方向に回転させ観察できる利点があります。このため3D画像をホームページ等に掲載することで、多くの人たちに遺跡や出土品の詳細な情報を提供することができます。今回は、この3D計測技術について紹介します。

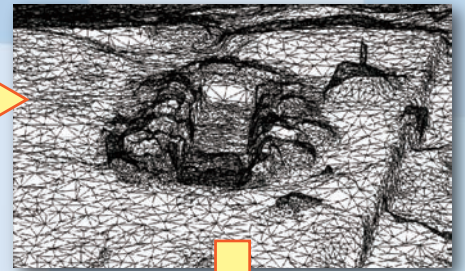
その1

レーザーで遺跡を測る!



地上型レーザースカナ装置

レーザーで測量した大量の測点をつないだ図。この図に写真を貼り付けることで3D画像ができます。



完成した石棺の3D画像
(石井垣上河原遺跡：大山町)

2次元画像と違って、3D画像では自由に画像をいろいろな角度に変えることができます。

豆知識

空からレーザー照射をして測量する航空レーザー測量もあります。



横からの視点を上からの視点に移動

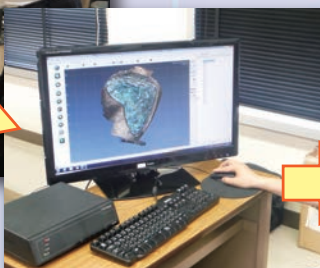
その2

出土品を3Dスキャンする!!



時間をかけて出土品を3Dスキャンすると!!

スキャナ装置



完成した3Dの画像
(下坂本清合遺跡出土の壺と埋蔵銭：鳥取市)

3D画像なので、拡大縮小、全方向回転も思いのまま!

